

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：抗菌薬

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
ペニシリン系	・アモキシシリン水和物（アモリン [®] 、サワシリン [®] 、パセトシン [®] 、ワイドシリン [®] ） ・スルタミシリントシル酸水和物（ユナシン [®] ）	・下痢 ・ショック ・アナフィラキシー	・ペニシリンアレルギーのある方に注意する。
セファロスポリン系（セフェム系）			
第1世代	・セファクロル（ケフラール [®] ）	・下痢 ・ショック ・アナフィラキシー ・腎・肝機能障害 ・偽膜性大腸炎	・ペニシリン系に過敏症の方に注意する。 ・高度の腎障害がある方に注意する。 ・セフジニル：尿が赤っぽくなることもある。
第2世代	・セフォチアムヘキサセチル塩酸塩（パンスポリン T [®] ）		
第3世代	・セフジニル（セフゾン [®] ） ・セフジトレンピボキシル（メイアクト MS [®] ） ・セフカペンピボキシル塩酸塩水和物（フロモックス [®] ）		
テトラサイクリン系	・ミノサイクリン塩酸塩（ミノマイシン [®] ）	・下痢 ・ショック ・アナフィラキシー ・腎・肝機能障害 ・偽膜性大腸炎	・8歳未満の小児で歯牙の着色やエナメル質の形成不全、一過性の骨発育不全がみられるため、他の薬剤への変更を考慮する。 ・乳製品などカルシウムが入っているものやマグネシウム、鉄などを含むものと一緒に服用すると吸収が低下し作用が弱まるため、両者を一緒に摂るときには2～5時間の間隔を置くようにするとよい。
ベネム系	・ファロベネムナトリウム水和物（ファロム [®] ）	・下痢 ・ショック ・アナフィラキシー ・腎・肝機能障害 ・偽膜性大腸炎	・ペニシリン系、セファロスポリン系に過敏症の方に注意する。 ・高度の腎障害がある方に注意する。

理学療法ジャーナル 48巻 8号 付録

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：抗ウイルス薬、抗真菌薬

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

●抗ウイルス薬

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
ヘルペスウイルス	・アシクロビル（ゾビラックス [®] ） ・バラシクロビル塩酸塩（バルトレックス [®] ）	・ショック ・アナフィラキシー ・下痢 ・悪心	・アシクロビル：単純疱疹、帯状疱疹に用いる場合、1日5回の服用と服用回数が多い。 ・バラシクロビル：アシクロビルと比べて服用回数が少ない。
インフルエンザウイルス	・ザナミビル水和物（リレンザ [®] ） ・オセルタミビルリン酸塩（タミフル [®] ） ・ラニナミビルオクタン酸エステル水和物（イナビル [®] ）	・ショック ・アナフィラキシー ・下痢 ・悪心	・ザナミビル、ラニナミビルオクタン酸エステルは吸入なので不向きな方もいる。 ・オセルタミビルリン酸塩：10歳以上の未成年の患者には、異常行動に注意が必要である。

●抗真菌薬

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
アリルアミン系	・テルビナフィン塩酸塩（ラミシール [®] ）	・肝障害 ・胃部不快感	・肝臓や腎臓が悪い方は服用に注意する。
トリアゾール系	・フルコナゾール（ジフルカン [®] ） ・イトラコナゾール（イトリゾール [®] ） ・ボリコナゾール（ブイフェンド [®] ）	・ショック ・アナフィラキシー ・肝障害	・併用禁忌な薬があるので、併用薬を確認する。

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：抗菌薬

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
ホスホマイシン系	・ホスホマイシンカルシウム水和物（ホスミシン®）	・偽膜性大腸炎	・腸管への移行性が高いため、腸炎などに使われる。
マクロライド系			
14 員環系	・エリスロマイシステアリン酸塩（エリスロシン®） ・クラリスロマイシン（クラリシッド®、クラリス®）	・下痢 ・ショック ・アナフィラキシー ・偽膜性大腸炎 ・肝機能障害	・エルゴタミン含有製剤（片頭痛治療薬）との併用は禁忌になっている。 ・エリスロマイシステアリン酸塩、クラリスロマイシンは長期投与とされることがある。
15 員環系	・アジスロマイシン水和物（ジスロマック®）		
ニューキノロン系	・オフロキサシン水和物（タリビット®） ・レボフロキサチン（クラビット®） ・トスフロキサシントシル酸塩水和物（オゼックス®, トスキサシン®） ・メシル酸ガレノキサシン水和物（ジェニナック®）	・下痢 ・ショック ・アナフィラキシー ・低血糖 ・高血糖	・乳製品などカルシウムが入っているものやマグネシウム、鉄、亜鉛などを含むものと一緒に服用すると吸収が低下し作用が弱まるため、両者を一緒に摂るときには2時間以上間隔を置くようにする。 ・低血糖や高血糖の副作用が報告されているため、糖尿病の方の服用には注意する。
抗結核薬	・イソニアジド（イスコチン®, ヒドラ®） ・リファンピシン（リファジン®） ・エタンブトール塩酸塩（エサンブトール®, エブトール®） ・ピラジナミド（ピラマイド®）	・イソニアジド：肝障害、末梢神経炎、視神経炎 ・リファンピシン：肝機能障害、ショック、アナフィラキシー ・エタンブトール：視力障害、肝障害、ショック、アナフィラキシー ・ピラジナミド：肝障害	・イソニアジド：末梢神経炎や視神経炎の予防にビタミンB ₆ が投与とされることがある。 ・リファンピシン：尿や糞、唾液、涙液、汗などがオレンジ色を呈したり、コンタクトレンズが変色することがある。 ・エタンブトール：視力障害を来すことがあるので、物が見えにくいなどがあれば早急に対応する。 ・結核の治療には複数の結核治療薬が使われる。

理学療法ジャーナル 48巻 8号 付録

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：抗悪性腫瘍薬

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
アルキル化剤	・シクロホスファミド（エンドキサン®）	・悪心・嘔吐 ・骨髄抑制 ・発疹 ・出血性膀胱炎	・骨髄抑制の副作用があるため、感染症に注意する。 ・肺がん、乳がんなど幅広いがんに用いられる。
代謝拮抗薬	・フルオロウラシル（5-FU®） ・ウラシル・テガフル（ユーエフティ®） ・オテラシルカリウム・ギメラシル・テガフル（ティーエスワン®） ・カベシタピン（ゼローダ®）	・悪心・嘔吐 ・下痢 ・肝障害	・重篤な副作用があったり服用方法が個人によって異なる薬があるため、注意する。 ・代謝拮抗薬同士での変更は服用間隔を空けなくてはいけない薬があるので注意する。
ホルモン薬	・エストラムスチンリン酸エステルナトリウム（エストラサイト®） ・フルタミド（オダイン®） ・ピカルタミド（カソデックス®） ・タモキシフェンクエン酸塩（ノルバデックス®） ・トレミフェンクエン酸塩（フェアストン®） ・アナストロゾール（アリミデックス®） ・レトロゾール（フェマーラ®） ・エキセメスタン（アロマシン®）	・肝障害：エストラムスチンリン酸エステルナトリウム、フルタミド、ピカルタミド ・血栓・塞栓症：タモキシフェンクエン酸塩、トレミフェンクエン酸塩、アナストロゾール、レトロゾール、エキセメスタン	・エストラムスチンリン酸エステルナトリウム、フルタミド、ピカルタミドは、前立腺がんの治療薬である。 ・タモキシフェンクエン酸塩、トレミフェンクエン酸塩、アナストロゾール、レトロゾール、エキセメスタンは、乳がんの治療薬である。
分子標的治療薬	・ゲフィニチブ（イレッサ®）	・間質性肺炎 ・肝機能障害	・分子レベルで標的を定め、人工的に作られた薬である。